

【障害者ピアサポート研修事業 基礎・専門・フォローアップ研修シラバス案】

本シラバス案は、厚生労働省が示している障害者ピアサポート研修事業要綱に添って、令和3年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害者ピアサポート研修における講師の養成のための研修カリキュラムの効果測定及びガイドブックの開発」（社会福祉法人豊苾会）にて作成したものです。

【基礎研修シラバス案】

番号及び科目名称	獲得目標	内容	時間数
オリエンテーション →要綱には提示されておりません。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者ピアサポート研修の流れと目的を理解する。 ・講義と演習を繰り返し行うため、グループワークに参加する際のルールについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2日間の研修の目的、概略を説明する。特に本研修が障害福祉サービス等で職員として働くピアサポーターの養成及び、ともに働く事業所職員のピアサポートへの理解を促進することを目的としている点についての理解を深める。 ・グループワークへの参加に関するグラドルールなどを提示し、積極的な参加を促す。 <p>〈グラドルール例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループに積極的に参加しましょう。 ○しっかり聴く姿勢を心がけましょう。 <p>もちろん、内容によっては「パス」という選択もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの考えを尊重しましょう。 <p>どのような意見や発言も批判や否定をしないで傾聴しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間をひとりじめするのではなく、わかちあいましょう。 ○お互いの信頼がなければ話はできません。参加者個人の情報は、その場において帰り、他人に話したりしないようにしましょう。 	—
1. ピアサポートの理解 2. 演習①	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポートとは何かという基本について理解する。 ・ピアサポート活動は、障害者の人権と深く関連しており、障害当事者の強みを活かし、その人らしい人生を生きるという当たり前の権利を実現しようとすることを支援する点に大きな特徴があることを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポートとは仲間（ピア）としての支えあいであることを理解する。ピアサポート＝経験を活かして働くということではなく、多様な領域で多彩な活動が展開されており、障害福祉サービス等で働くこともその一部であるということを認識する。 ・ピアサポートは他領域でも活用されているが、障害領域でも、精神障害、身体障害、知的障害、難病、高次脳機能障害など、それぞれの障害ごとに多彩なピアサポート活動が展開されてきた歴史があることを学ぶ。 ・ピアサポート活動では、ストレングス視点（強みを活かす視点）が重要であり、その人のやりたいことの実現に向けてともに歩む姿勢が重要であることを理解する。 ・ピアサポート活動と障害者の権利に関する条約は関連しており、条約は人の多様性を認め、当事者の意思を尊重することの大切さを謳っている。ピアサポート活動もまた、障害者の人権尊重ということを大 	講義 30分 演習 60分

		<p>事に行っている実践であることを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習においては、グループメンバーの自己紹介を兼ねて、自分が経験から考えるピアサポートや、自分自身の強みについて話し合い、これからはじまる研修のウォーミングアップを行うとともに、相互理解を深める。 	
<p>3. ピアサポートの理解の実例・事例</p> <p>4. 演習②</p>	<p>・「ピアサポートの理解」においても、障害ごとのピアサポートについて触れたが、ここでは、障害当事者の経験に基づく語りを通して、より具体的にピアサポートを理解する。</p>	<p>・多様な障害領域のピアサポーターがそれぞれの障害領域におけるピアサポートの歴史を踏えつつ、その活動の実際をわかりやすく語ってもらうことにより、ピアサポートへの理解を深める</p> <p>【例】精神障害、身体障害、知的障害、高次脳機能障害、難病など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな障害領域でのピアサポートが活用される場所や方法は異なるが、共通しているのは、経験を生かして活動する点にあることを理解する。 ・演習においては、体験に基づく講義を踏まえ、障害当事者の方は自分の経験の活かし方を考え、事業所職員はピアサポートをどうしたら活かすことができるのかを考える。 	<p>講義 70 分</p> <p>演習 40 分</p>
<p>5. コミュニケーションの基本</p> <p>6. 演習③</p>	<p>・人を対象としたサポートでのコミュニケーションの大切さを学ぶ。</p> <p>・技法を使用することでの気づきを共有し、自らのコミュニケーションへの意識を働かせる。</p>	<p>人をサポートするコミュニケーションにおいて、特に以下の点に留意し、自分自身のコミュニケーションを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人をサポートするコミュニケーションでは、相手に対する理解を深める態度が大切(受容と共感)。 ○自分自身の体験を思い起こし、話している相手の気持ちを考える。 ○話を聴く時は、プライバシー、距離感、視線、心地よさなどに配慮する。 ○自分の考えを押し付けるのではなく、「私」を主語にする伝え方をこころがける。 <p>・演習では、例えば、ロールプレイなどを取り入れ、YOU(ユー)メッセージをI(アイ)メッセージに変えて見るなどによって、どのように印象が変わるか体験してみる。その印象などからの気づきを共有する。</p>	<p>講義 40 分</p> <p>演習 60 分</p>
<p>7. 障害福祉サービス等の基礎と実際</p> <p>8. 演習④</p>	<p>・障害福祉施策の歴史や障害福祉施策の仕組みを知る。</p>	<p>・ピアサポーターが実際に雇用される障害福祉サービス等の歴史や現状、その仕組みなどを把握する。</p> <p>・演習では、どのような福祉サービス等があるのかを挙げ、実際に事業所などで「雇用された」ピアサポーターがどのように経験を活かして活動できるのか(活動しているか)を検討する。事業所職員の立場からは、どのようにピアサポーターに活躍してもらいたいかを考える。</p>	<p>講義 40 分</p> <p>演習 20 分</p>

9. ピアサポーターの専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポートの専門性と、それを活かすことにより、より良いサービスが提供できることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーターの大切な強みは、障害や病気を持ちながら生きてきた経験を活かして共感し、同じような経験をしている人が前向きに生きていけるように応援できる点にあることを認識する。 	講義 30 分
10. 演習⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・その専門性を担保するための倫理と守秘義務について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス等における職員として働く際に、守る必要があるルールについて理解する。 ・演習においては、ピアサポートの専門性についてディスカッションすることを通して、ピアサポーターと他の職員と一緒に働く（協働する）ことでより良いサービスが提供できることを理解する。 	演習 50 分

【専門研修シラバス案】

科目	獲得目標	内容	時間数
1. 基礎研修の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修で学んだことを振り返るとともに、専門研修の概要を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポートの多様性、当事者の意思を尊重するという基本的な姿勢、経験を活かし、その人の大切な強みを引き出すピアサポートの専門性など、基礎研修での学びを振り返る。 ・専門研修での学びの大枠を理解する。 	講義 30分
2. ピアサポーターの基礎と専門性 3. 演習①	<ul style="list-style-type: none"> ・“リカバリー”（「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」）について理解する。 ・障害者ピアサポーターとしての専門性について改めて確認する。 ・障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする過程やこれまでの経験等を言葉にすること（リカバリーストーリーを語ること）の大切さを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害や病気によって、人生において困難な体験をしたとしても、そこから“リカバリー”（「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」）していけるということを体現しているのが、ピアサポーターであり、ロールモデルとして、サポートを必要としている人たちが希望を見いだすことを後押しする役割を担っていることを理解する。 ・講義においては、障害当事者の講師が自らのリカバリーストーリーを語ることにより、理解が深まる。 ・演習では、ピサポーターだけではなく、事業所の職員もリカバリーストーリーを書く。障害当事者とは立場が異なる部分もあるが、これまでの人生における困難と向き合い、どのように自分らしく生きてきたのかを書く。自分の描いたリカバリーストーリーをグループメンバーに語りながら「他人がリカバリーするのを手助けする」ために「他者に自分を差し出す感覚」を主体的に学ぶ。 	講義 40分 演習 60分
4. ピアサポートの専門性の活用 5. 演習②	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアの専門性を活かすために重要な視点を理解する。 ・ピアの専門性の活かし方を具体的な例から学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアの専門性を活かした支援を実践するために以下のような重要な視点について理解する。 ○障害を理解する… ICF（国際生活機能分類） ○その人の強みを活かす（ストレングス）の視点 ○その人の持っている力を高める（エンパワメント） ○その人の権利を守る…アドボカシーとピアアドボカシー ○どこで誰とどんな風に暮らすかを定める手助けをする……意思決定支援 ・具体例を通して、ピアサポートの専門性を活かす方法を学ぶ。 ・演習においては、事例を通して、ピアサポートの専門性が具体的な場面でどう活用できるのかを理解する。特にRさん、Mさん、及びJさんを取り巻く環境のストレングスを見つけ出し、ピアサポーターとして、あるいは、事業所の職員として伝えたい経験やどのような支援が考えられるかを話し合う。 	講義 40分 演習 30分
6. 関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉に関する制度や法律の関連を知る ・生活を支える事業や機関 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健制度・医療制度・福祉制度に関する基本的な法律について理解する。また、その中で、特に障害者福祉に関連する法律について学ぶ。 ・人としての生活を支えている社会保障制度、保健・医療の仕組み 	講義 40分 演習 20分

<p>(障害者)</p> <p>7. 演習③</p>	<p>を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉サービス事業所等での実際の業務をイメージできる。 	<p>等についても理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉サービス等に直接かかわる障害者総合支援法の中のサービスや、医療機関においてどのようにピアサポートが活用されているのかを具体例を通して学ぶ。 ・ 演習では、自分自身が勤務しているところ、勤務したところのあるところについて説明してみたり、働いてみたいところについて話し合う。働いた経験や利用した経験がないサービスについても、グループメンバーの話を聴くことが学びとなる。 	
<p>6. ピアサポートを活用する技術と仕組み（事業所）</p> <p>7. 演習③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアサポーターがいることで、その事業所の職員だけでなく、組織にも良い影響が生まれることを理解する。 ・ ピアサポーターが効果的にそのスキル（能力や実力）を発揮するためには、事業所がピアサポートを理解し、環境を整えることの必要性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアサポーターがいることで、利用者に対してだけでなく、組織に対しても良い変化が生まれることが期待されるが、そうした効果を生むためには、「病気・障害への理解」「人として尊重すること」「ピアサポーターの専門性への理解」が必要であることを理解する。 ・ ピアサポーターが働く環境や労働条件として、「ピアサポーターが相談できる相手が職場内にいること」、「適正な賃金」、「職場内での人間関係」が重視されていることから、ピアサポーターと一緒に働く職員との協働が必要不可欠であることを理解する。 ・ 演習では、ピアサポーターと一緒に働くことになった場合に期待することと、ピアサポーターと共に働きやすい職場環境を作るためにはどんなことができるのか、グループでアイデアを出し合うことにより、ピアサポートの活用と事業所の仕組みづくりを学ぶ。 	<p>講義 40 分</p> <p>演習 20 分</p>
<p>9. ピアサポーターとしての働き方（障害者）</p> <p>10. 演習⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働者として働く上での権利と労働法規について学ぶ。 ・ 人を支援する上で、理解しておく必要がある倫理や各領域の倫理基準等について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用主（使用者）と雇用契約を結ぶことによって、労働者は労務を提供する義務などを負い、雇用主は約束した賃金を支払うなどの義務を負うことになることなど、労働契約の基本、具体的な手続き等について学ぶ。 ・ 雇用される事業所にも、就業規則などの職場の規程やルールがあり、それを遵守することが求められることを理解する。 ・ 事業所が労働法規を守っていないような場合や、待遇や働きやすさに満足できない場合、職場を変えることも選択肢のひとつであることを学ぶ。 ・ 対人援助を仕事とする際に、守るべき倫理について学び、関連する団体の倫理綱領や行動規範などを参照することにより、倫理に対する理解を深める。 ・ 演習では、これまでの職場で経験したことに関して、グループで話し合うことを通して、事業所で職員として働く上での権利や倫理観について確認する。 	<p>講義 30 分</p> <p>演習 40 分</p>
<p>9. ピアサポーターを活かす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアサポーターの雇用についての現状を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアサポート活動状況調査などの結果や実践例から、ピアサポーターがどのような場所で雇用され、活動しているのかを理解する。 	<p>講義 30 分</p> <p>演習 40 分</p>

<p>雇用 (事業所)</p> <p>10. 演習⑤</p>	<p>・ピアサポーターが活躍しやすい条件を具体的に考え、ピアサポーターと専門職が協働することについて理解を深める。</p>	<p>・実践例などから、ピアサポーターの業務内容や雇用の実情を学び、ピアサポーターの活かし方を考える。</p> <p>・演習においては、自分が所属する事業所でピアサポーターの活躍が考えられる具体的な支援内容について検討する。また、事業所でピアサポーターと働くことに不安を感じている職員がいる場合の対応などを一緒に考える。</p>	
<p>11. セルフマネジメントと バウンダリー</p> <p>12. 演習⑥</p>	<p>・ピアサポーターとして働き続けるために、セルフマネジメント（自己管理）の大切を知る。</p> <p>・役割葛藤、二重関係などピアサポーターが葛藤しやすい状況を理解する。</p> <p>・バウンダリーを意識することで、自分と相手を大切にしている関係性を学ぶ。</p>	<p>・ピアサポーターが抱えやすい葛藤について、具体例を示しながら、理解を進める。</p> <p>○当事者でもあり、支援者でもあるという役割葛藤</p> <p>○支援者と利用者が職員とサービス利用者というだけでなく、友人関係にあるといったように、ピアサポーターは複数の関係性（二重関係）に陥ることがある。</p> <p>上記のような環境に置かれることにより、「私」と「他者」という人間関係や感情の境界（バウンダリー）が曖昧になり、葛藤が生じたり、燃え尽きてしまうこともあることを理解する。</p> <p>・セルフケアを意識することは、自分自身と向き合うことでもあり、その大切さと意味を再認識する。</p> <p>・演習においては、ストレスなどを抱えた時の自己対処方法や、相談できる場所や人についてグループで話し合い、働き続けるためのセルフケアの大切さについて理解する。また、支援している中で、人との関係で悩んだり、苦労したことを出し合い、バウンダリーについての意識を高める。</p>	<p>講義 30 分 演習 40 分</p>
<p>13. チームアプローチ</p> <p>14. 演習⑦</p>	<p>・チームワークの必要性について学ぶ。</p> <p>・チームの中でのピアサポーターの役割や業務をイメージし、ピアサポーターの強みが発揮できること・発揮できるチーム作りについて学ぶ。</p>	<p>・チームとは何か、チームの必要性について学ぶ。また、チームの一員としてピアサポーターが働くために留意すること（合理的な配慮を含む）や役割、その有用性について学ぶ。</p> <p>具体的には、以下の点が重要である。</p> <p>○利用者の言葉に寄り添い、話に耳を傾けること</p> <p>○日々のコミュニケーションを通じて信頼関係をつくること</p> <p>○対等性を守り、互いを尊重して認め合うこと</p> <p>○ピアサポーターがもつ経験から得た知恵を活用すること</p> <p>・演習については、実際にどのようなチームで働いているのかを出し合う。それぞれのチームにおいて、担っているピアサポーターの役割は何か、ピアサポーターが強みを発揮できているとするならば、その要因は何か、うまく機能できていないとするならば、その要因は何かといった具体的な内容について、検討する。</p>	<p>講義 40 分 演習 60 分</p>